

2012/12/06

原子力委員会殿

「今後の高レベル放射性廃棄物の地層処分に係る取組について（見解案）」について

食のコミュニケーション円卓会議

代表 市川まりこ

見解案2ページから4ページにかけて、日本学術会議からの提言（回答）について書かれていますが、「（回答が）…としている点については（中略）必ずしも同意できるものではない」「回答には（NUMOの報告書への）言及がなかった」ことを指摘しながらも、「学術界のそうした問題意識が反映された結果であろう」などのように言外の気持ちをくみ取るような書き方をしていることに違和感を持ちました。困難な問題だからこそ、学術会議は、今ある英知を集めてしっかりと具体的な提言を回答すべきであり、原子力委員会も、改めてきちんと回答を求めるべきでした。学術界の「疑念」や「問題意識」については、回答に示された具体的な記述に基づいて書くべきであり、主観的な書き方をすべきではないと考えます。

より多くの国民からの意見を募るという趣旨を生かすためには、簡潔にわかりやすい概要を1枚つけた方がよいと思います。9ページに及ぶ見解案について、ふつうの市民が読みこなすのは大変です。特に強調したいところがわかるとなお良いと思います。

原子力委員会の重要な役割を考えると、今後のより良い取り組みのために、誰が何をすべきなのかを、もっと具体的に簡潔な言葉で見解を述べて下さるようお願い致します。

以上